





国見岳山頂にて 5 月 2 6 日)

もくじ

重廣さんと登る	
国見岳、五勇山	1
国見岳後日談	3
男鈴山、女鈴山	4
ふるさと富士ファイナル	4
私の無名山ガイドブック⑥	5
私の40周年記念山行	
アルバータ…トレッキング	7
市房山への道	7
船通山	7
安平路山は遠かった	8
おススメ映画	9
お知らせ	9

型車二台との離合にもバックをさせられる。下注へと入る。谷は深くなり、道も狭くなり、大杉峠より一気に下りに入り、いよいよ秘境五家がすんでいて今ひとつはっきりとしない。二本峠の展望所より北面の熊本平野方面の展望は の安部氏の手書き案内書どおりとする。(十時五ないスペースに反転して止める。昨日より先行 荘の前を通過。いよいよ林道へ。走ること三十屋敷より左に入りしばらくで本日の宿の樅木山 やや下った五勇谷橋手前にて車止。 分で舗装も切れ、左側深く切れ落ちた谷をみて、 という。 港にて出迎えて、やっと空港を発ったところだ待たずに先行する旨を伝える。重廣氏を熊本空 アシックスの橋口氏と電話にて連絡をとり、

一時間は遅れているだろう。

道路脇の少

五家荘へ向けて高森経由にて車を走らせる。途竹田ドライブインで児玉、衞藤氏と合流。一路発。車四台に分乗。竹田にて甲斐さんを拾い、五月二十六日(土)晴れ、定刻午前六時大分 した脊梁の山で、支部では月例山行と重ねた計五月の九州での目的の分水嶺は国見岳を中心との足立山(前回会報にて報告済み)でしたが、画である。このシリーズでの第一回は三月四日 中二本杉峠を登りついたところで休憩。 その報告をする。 画となり、支部員十三名の参加となった。 以下 大分

分水嶺を登る

加 藤

英

彦

後記

えて、そのテーマは「分水嶺を登る」という企周年記念のイベントは、今回最終シリーズを迎重廣恒夫さんの所属するタラスブルバ二十五

(五月月例山行報告)

ぐれていく。やがて左からの以 抜けていく感じがする。体もほ 昨夜のアルコールがじわじわと という間に一汗かくことになり、 りはじめてのすぐの急登であっ 急登でその切りカブをつかんで たのか、檜の切りカブが新しい。 認できる。ブナの新芽がすばら 台地は前方に明日の目的の山、モミ、ブナ、ヒメシャラの茂る ざってくる。展望も少しづつ開 らブナ、ナラなどの自然林が交 前の登山道と合流したあたりか の登りとなるところもある。登 谷橋を渡り林道歩き五分で国見 えて出発。 (十時〇八分) 五勇 しい尾根である。 五勇山、烏帽子岳の縦走路も確 けてくるが続いての急登である。 く。登り始めると直ぐに人工林 て一休み。 中の急登となる。最近伐採し やがて一四〇九mのピークに すぐに登山スタイルをととの 右手直登ルートへとりつ (二二時二十二分)

た型となり、コバイケイソウが 面が正面に望まれ、尾根を広げ 樹陰が広がり、目的の国見岳方 ろより左側はスズタケも切れて となり、上部の尾根に達するこ といった見事な大木に出くわす。 木や、この尾根のあるじは俺だ の世界に出てきそうなブナの大 水分を欲しがる。やがて又急登 うす日がもれ、汗の量も多い。 登るにつれて「もののけ姫」

> うと、左に二分で山頂到着。 五勇山方面からの縦走路と出あ の案内板があり、これをすぎ、 林をすぎると山頂まであと五分 大半で散った状態のシャクナゲ た色あせた花びらがついたのが の群落となり、 (十四時〇五分) もう盛りをすぎ

なる。 えて鎮座している。さっそく乾 の岩上には本殿が赤い階段を従 重廣さんとは三月以来の再会と シックスの五名が続々と到着。 事を広げてすぐに遅れていたア 杯に続いて遅い昼食となる。食 山頂には東西に岩座があり、東 さすがに脊梁の盟主である、 さすがに熊本県での最高峰、

止。ここはこのコースでは休むり一四〇九mのピークにて小休 までに一六時五十五分到着。 かでクレームもでたが、車止め たのとは違うルートを下ったと にはもってこいの場所だ。 は登路を忠実に下る。途中やは いうグループもいた。恒例によ ので最高峰の山を登っていると 今朝東京より発ったという各県 登山者も我々の他に数組あり、 人工林の中のルートでは、登っ ニカにて演奏で拍手をもらう。 「夏の思い出」の三曲をハーモ 一五時○五分下山開始。下山 「雪山讃歌」「夏は来ぬ」

いながら食卓を飾った。

五月二十七日 (日)

道の中央に横たわっている。や ばかりの大きな「まむし」一匹、 うのに手間どった民宿であった るのだ。 はりこの山にはこんなやつがい ている。林道途中にて殺された 安部氏が昨日話をつけて、今日 ぎ、すぐに右手の林道に入る。 し雲いきがあやしく、昨日と同 は入っても良いと了解をもらっ るが今日は日曜日で誰もいない。 治山工事中につき入山禁止とあ ところに車止め。五勇谷橋を過 じ林道を走らせて、昨日と同じ が、六時半出発。予報どおり少 六時から朝食、少し弁当が揃

カーブしたところで先行する西 行と合流。 林道歩き四十分で右に大きく 熊本より来る一行

食事までに樅木吊橋まで出かけ

もみのきではない)に六時到着。

本日の宿樅木山荘(もみき、

た組もいたが、七時過ぎから食

宴会となる。

菜、岩茸やヤアメ料理、例によ に釣り上げられたヤマメも小さ ない小竹嬢も、先行した安部氏 り、あい変わらず熱燗しか飲ま ってビールから焼酎に移行組あ 重廣さんより乾杯の音頭、

で終了となった。 ど笑いころげた人も出たところ の唄であしたの天気予報を占っ カタログ、バンダナ、Tシャ ツ)を全員に頂く。最後は得意 おみやげ四点セット(ポスター、 て腹の筋肉がおかしくなったほ てもらい、アシックスの方から 参加者一人一人にサインをし

ると右への急登の斜面に取り付 古いテープが右に二カ所あるの 二五日発行、P一七二)果たし 登るも、一ピッチ目あたりで完 認するが、やがて谷が二つに分 み跡もなく、テープも相当に古 てこの頁を紹介した著者はこの 本百名山」…一九九八年一二月 で縦走路に出るとある。(「熊 る。ガイドにはこの谷を一時間 全にルートが消えてしまってい すかに残る古いテープを頼りに で右の谷へと入る。しばらく登 かれているところに出くわす。 る。地図をみながらガイドを確 いものがかすかに残るだけであ ルートを歩いたのだろうか。踏 重廣さんも先頭に加わり、

棘のある木をつかみそうにも 様子もない。 スギの古い人工林 のグループが道案内をしている となっているようで、熊本から も先行の我々の足跡をたどる型 ランシーバーでの連絡で、 枝や木をつかみながら、中には 不安定な中の登りとなる。古い の急登をあえぎながら、足場の 遅れてくる橋口氏ら一行とト 彼ら

を待つために橋口氏ら三名は残

こまでで引き返す。 かすかに残っている踏み跡ルー 跡が消えている。谷の左岸側に り砂防ダムの工事中のため踏み りとなる。取り付きよりいきな トをたどるも、すぐに五名はこ いよいよ五勇山 への道なき登

く型となる。

(五勇山山頂にて)

る。やがて植生が変わったの う感じである。すると今度はシ き分け、漕いで登っているとい という感じだ。 ピークのやや東側にやっと出た 帽子岳間の縦走路の一六五四m やっと苦登三時間、五勇山と鳥 とにかく上へ上へと登るだけだ。 が、またスズタケがあらわれる。 ということは縦走路も近いのだ む型となる。シャクナゲが出た ャクナゲの古木が行く手をはば のことだ。まさにかき分け、か いとなる。本当に藪こぎとはこ わかり、次にはスズタケとの

すぐに止む。食事、二本の缶ビ 勇山。少しパラパラっときたが すぐに左(東)へ二〇分で五 ルで全員で乾杯。民宿の弁当

のルートは案内係としての役は 来たとのこと。熊本組でさえこ 後発の橋口氏ら一行も到着。 たす。やたらとブヨの多い山頂 しなかったとのことである。 々とほぼ同じルートをたどって とラーメンとコーヒーで腹を満 重廣さんの熊本空港での時間 やがて小一時間待って 我

組のリーダーもモハチ谷は下っ 下山に使うことにして、 を変更して、五勇山から国見岳 た経験がないという。急遽予定 ないかもしれない。それに熊本 ルートをとると時間が間にあわ 子岳へ縦走してモハチ谷を下る へ向かい、昨日通ったルートを 橋口氏

国皇岳 概念回

国驻 17380~ 1708-强山(662-

を考慮した場合、これから烏帽 かう。 の一行八名を残して国見岳へ向 記念撮影をして早々に熊本より 一行は食事もあたふたと、早速

とあきれていた。 登山者が「もう下るのですか」 でとんぼ返り。山頂にいた他の 頂を踏み、一分も山頂にいない 分で国見岳最後の登りへ。我々 行四名は二日続けて国見岳山 小国見を巻いて約一時間一〇

ると、時間も昨日より二〇分も 道終点に無事下山。二日間の行 短縮して待機組の待っている林 程を終える。 昨日と同じルートを快調に下

帰着午後九時。 陽町の温泉にて汗を流し、大分 あいさつの後、 いで帰る重廣さん一行と別れの 空港までの時間がないので急 車に分乗して蘇

れなりの表現が欲しい。重廣さが廃道と化したものであればそ うな、 が本当に歩いてみて書いたもの てあったが、果たして書いた者 単に、一時間で縦走路にと書い 脊梁の山々は確かに深い。そし 岳を楽しんだ二日間であった。 にも簡単すぎた。以前にあった に消えていたが、ガイドには簡 からの五勇山へのルートが完全 え暗くなるのではとまで思えそ の山に魅入ってしまえば性格さ て遠いし、暗い感じがした。こ ガイドに出ていた五勇谷林道 予定の変更はあったが、国見 山また山の感じだった。 表現があまり

> 同じガイドブックをみて決めた めたのかを確かめたら、やはり とのことであった。

何でしょうか。

ないかと思いますが、皆様は如

分水嶺を歩いたことになる。 って八代海(東シナ海)へ注ぐ

んに今日のコースをどうして決

向灘(太平洋)に注ぎ、西は 嶺とは、東は「耳川」であり日 最後に今回のテーマである分水 も登れるものであると感じた。 にみえた。地図と磁石を頼りで ものが祖母山よりも少ないよう は、あまり指導標などがなくて のほんとうの山歩きとなる場合 の山々にはほとんどそれらしい ているのを読んだが、この脊梁 指導標が少ないと新聞に投書し 「川辺川」から「球磨川」とな 最近、祖母山の登山ルートに

参加者 西あずさ、西孝子(以上支部会 佐藤秀二、 加藤英彦、小竹初美、 田勝之、衛藤徹郎、甲斐良治、 重廣恒夫、橋口修治、 安藤幹、安部可人、飯 佐藤正八、 遠江洋子、 児玉良章、 (以上 米谷

とれません。

国見岳後日談

重廣恒夫さんよりの

件名「藪こぎご苦労様でした」

山を楽しむことが出来たのでは いて悪戦苦闘爽やかな肥後の藪 分水嶺の山は、藪こぎの山 岡山県人形仙に続

ても、エアーサロンパス、ハチ でもぞもぞ、シャンプーをかけ ても「いい湯だな」位のつもり 四五度のお湯をシャワーでかけ 敵もしつこい奴でビクともせず、 張り出して掻き掻きしましたが、3 ましたが妙案はなく、女房、娘 ながら思いを巡らせ、 わけにも行かず、ビールを飲み い出をいつまでも背中に背負う といっても、取れないダニの思 いついていました。傷の数ほど びっくり、背中にダニが一匹食 ノックSまで持ち出したがまだ は旅行中で、「孫の手」を引っ い出が出来るのが、 しさではないでしょうか。 身体に刻まれた傷の数ほど思 小生の方ですが風呂に入って 山登りの楽 本を読み

待つこと一〇分、恐る恐るはが ばず。ガムテープにティッシュ うやって噴射するか妙案は浮か それを背中のダニに貼り付けて を貼り付けてダニキラーを噴射、 キラー」のスプレー、背中にど とした頭に浮かんだのが「ダニ 度の水割りを飲みながら、 空港で購入した薩摩白波の三七 したがダニはまだ背中にしっか 絶望を酒で紛らわそうと熊本

うにそろりそろりと引っ張ると、 面白いのではないでしょう かべるだけでも皆さんにとても 捻じ曲げての悪戦苦闘、頭に浮 ました。 めの指の先に完全な姿で掴まり スポンと音はしなかったが、私 のことで掴み、頭が切れないよ 捻じ曲げて左手でダニをやっと 感にさいなまれながら固い身を りと足を踏ん張っている。絶望 (鏡を背にし、身体を

の針は十一時を回っておりまし いただきました。見上げた時計 嬉しさでもう一杯。水割りを

ビスもいたします。 話いただければ実況中継のサー おられましたら御参考に!お電 今後ダニに食いつかれた方が

身の不自由さを感じたのは、手 指八本が凍傷に罹ったときでは のことでした。まずは昨日のご なく、この世に生まれて初めて それにしてもこの時ほぞ一人

人の了解を得て掲載しまし (事務局に届いたメールをご本



(大三,四四)

六月月例山行報告

玉 良

たが、 この山だった。 だし、違うだろうと勝手に決め たらこの山かもしれないと思っ 山で「男鈴山(七八三,四 ったとき、最後の一〇〇番目の ふと「みやざき百山」に目が行 の資料等を読みあさっていた。 の間違いであろうと思って、山 つけていた。しかし、 連絡をもらったとき、 る二等三角点の山である。最初 m)」が載っていた。もしかし 「尾鈴山 (一四〇五, 二m)」 今回の山は宮崎県日南市にあ あまり有名でもなさそう やっぱり 都農町の

ころにテントを張り就寝。ここ さっそく屋根付きのベンチのと だった。大分から二四六km。 谷」に着いたのは十一時四〇分 た。いざ宮崎へ。ひたすら南下 いにく天気予報も雨の予報だっ 私を入れて五人だけだった。あ 佐藤(正)、佐藤(秀)さんと 山」ぐらいしか載っていないの し、マイナーで「みやざき百 行くにはにはあまりにも遠い 結局集まったのは西、小竹、 「日南ダム」の道の駅「酒

> ちょうどこの「道の駅」が峠道 になっているらしく一晩中騒が の中間あたりで、トイレ休憩所 で、佐藤先生が良く覚えていた。 登ったときに泊まった所だそう しかった。

目か! ときに見ていたのだ。何という 西さんは、昨夜ここを通過する るが、非常にわかり辛い。明る る。この道は小さな案内板があ らい戻り、登山口に続く道に入 りの弁当をいただき六時に出発。 いときに見てもわかり辛いのに、 いったん昨夜来た道を一kmく 五時に起き、小竹さんの手作

迎えてくれた。 けど、途中「サザンカ」の巨木 ある展望地からは何も見えなか こからまず「男鈴山」に向けて かなり荒れた林道になる。この 最後の家(豚小屋)を過ぎると のない二等三角点が気持ちよく 分に「男鈴山」山頂に到着。傷 に驚いたりしながら七時四十四 ったし、急登のところもあった スって来たし、ところどころに 六時五〇分登山開始。かなりガ め、林道終点近くまで行き駐車。 悪路をぐんぐん登って行く。 「女鈴山」登山口に車を一台止 ちょうどこの山の北側で、こ 狭いが人家の点在する道で、

なかった。一つ不思議なことが あった。宮崎一三〇名山と書か いた。残念だがガスで何も見え 山頂部分はかなり広く開けて

あった。

平成一三年一一月?日と日 付が

道のことは全く記されていない。 やざき百山」にはこの神社と林 うことだ。しかし、地図や「み ことに車で山頂まで来れるとい どうしてだろう。 こまで登って来ている。残念な ある。先ほどの立派な林道はこ んと立派な神社「鈴嶽神社」が ぐに林道と分かれて急登すると る。八時一二分、鞍部で立派な 位置する「女鈴山」に向けて下 八分後、「女鈴山」山頂着。な コンクリートの林道に出る。 七時五五分山頂を出発。南に 直

かずじまいだった。 にもやられなかったし、 車を止めた所に到着。幸いに雨 山頂出発。九時一五分、最初に 気温は一八度C、八時三五分 汗もか

労様でした。

御膳 (三,〇〇〇円)」をいた 藤(秀)さんが昔彼女と来たら け」も含まれていた。 だいた。名物の「厚焼き卵」 しい「服部亭」一番高い「服部 で見るものはなかったが、、佐 そく「飫肥城趾」へ。跡地なの からは文化登山の始まり。さつ 「飫肥天」「ムカデリのみそ漬 今回登山はこれで終了。ここ

途中、田野町の道の駅「蔵谷ふ れあい牧場」でお土産(赤山芋 モモを採って食べ、いざ帰郷。 で出なかった汗をサウナで出し きり、ここの駐車場にあるヤマ 次は温泉。北郷温泉に行き、山 おなかもいっぱいになったし

> うのに雨にもあわず、 う機会でもなければまず登る山 野から高速道路に乗り一気に西 さんには感謝を表したい。ご苦 運転手をつとめてくれた両佐藤 が多かった楽しい山行であった。 たであろう。幸いに、梅雨とい 四人を見送って実家へ。こうい 崎に住んでいた佐藤(秀)さん 都へ、国道一〇号線には出らず の苗、猪カレー等)を買い、 いう町もまず行くことはなかっ ではないだろうし、「飫肥」と は詳しい。五時頃三重町に着き、 とは知らなかった。さすがに宮 号線に合流。こんな裏道がある 路)を走り、日向でやっと一〇 に、ひたすら裏道、(農免道 得るもの

参加者 佐藤秀二、佐藤正八、西 小竹初美、児玉章良、 孝子



西 あず 3

る重廣さんの去年のテーマの っていました。蒲田富士です。 『ふるさと富士』が一つだけ残 『分水嶺』 で全国を回って

五月に国見岳でご一緒したとき に誘われました。重廣さんに誘われたら、そのうれしさだけで はこでも出かけて行きたくなる のですが、場所がね・・・・ かので山頂には標識もなく静かいので山頂には標識もなく静かいので山頂には標識もなく静かいのでが、夏の一般ルートではないのです。冬に新穂高から入山し、蒲田富士から涸沢岳を経てし、蒲田富士から涸沢岳を経てし、蒲田富士から涸沢岳を経てし、蒲田富士から涸沢岳を経てし、蒲田富士から涸沢岳を経て

登を匂わせます。
登を匂わせます。

去年のお正月、穂高へ向かうないのに、山中一泊二日というコイのに、山中一泊二日というコイのに、山中一泊二日というコイのに、山中一泊二日というコイのに、山中一泊二日というない。

るので、急登ですが快適に高度登が続きます。冬は雪に覆われで置にある赤テープを頼りに急がと高いがとなり、微かな踏み跡と高いから五分ぐらいの所を右に入りから五分である赤テープを頼りに急が続きます。

分』がモットーです。一、下りに三分の二の体力配登る重廣さんは『登りに三分のを移げます。ゆっくりゆっくり

をが途切れると足元に雪が出てきます。六月九日ですから北いませんでした。 からの穂高だと当然アイゼンがからの穂高だと当然アイゼンががらの穂高だと当然アイゼンががらいます。 涸沢 アルプスの残雪は年により、場 アルプスの残雪は年により、場 アルプスの残雪は年により、場 アルプスの残雪は年により、場 でが途切れると足元に雪が出

足元にはマイズルソウやイワを吹き飛ばしてくれます。そのを吹き飛ばしてくれます。そのには驚きないルートなので、落としたゴミに対する認識も鈍るのかも、まを雪が隠してしまいますから、おといません。一般のルートでこんなにゴミが落ちていることはかなにゴミが落ちていることはないような気がしますが・・・

涸沢岳を大きく感じたことは

思えない酒量の豊富さに大笑い ○ mあたりに十張りほどの広 さ)よりさらに登り、稜線に 走りやっと張れそうな広さのテ とりず、重廣さん特性のソー を負けず、重廣さん特性のソー を負けず、重廣さん特性のソー を負けず、重廣さん特性のソー を負けず、重廣さん特性のリー とした。デントの中は雨に があました。テントの中は雨に があました。テントの中は雨に があました。テントの中は雨に があました。テントの中は雨に とした。ビールに白波、泡盛、ブ といで、冬の突 をいでしょう。テ といが絶品で といが絶品で といが、すでに森林 といが、本でに森林 といが、本でに森林

とこ。・・・・シュラフになだれ込みを聞いたような聞かないようなでした。私は、翌朝の起床時間でした。

っている場所でもあります。 に見えます。左には滝谷の荒々に見えます。左には滝谷の荒々に見えます。左には滝谷の荒々に見えます。左には滝谷の荒々で、人を寄せつけない静寂が孤ったが、別世界のことのようましたが、別世界のことのようましたが、別世界のことのようましたが、別世界のことのような味な茶褐色の岩肌はそそり立ちクライマーの登攀意欲を駆り立てるとともに、多くの夢が眠めら見ると結構大きな岩の塊にから見ると結構大きな岩の塊にから見ると結構大きな岩の塊にから見るとはでしたが、蒲田富士のでいる場所でもあります。

個沢岳からは、まだまだ雪に した。あとは二千メートルを下 を引かれながら来た道を下りま に下りたい気持ちから、後ろ髪 に下りたい気持ちから、後ろ髪 に下りたい気持ちから、後ろ髪 を引かれながら来た道を下りま した。あとは二千メートルを下

いう間に姿が見えなくなります。こんなにしんどい下りは初めてしたが、まだ気を緩められませー気に飲んでやっと元気が出ましたが、まだ気を緩められません。バスの時間が迫っていました。だっているにしんどい下りは初めて

をかわい て無事に帰り着きました。 夏のたく よろしく」と運転手さんを脅し が核心部 た。 しくバスに飛び乗り「予定通り から双六、分間つかっただけで、あわただ いにはハ に運行してくれないと高山駅か から双六、分間つかっただけで、あわただ よう。山 新穂高温泉の湯船にわずか一 が核心部 た。 、バスの時間が迫っていまし が核心部 、が表しく」と運転手さんを脅し が核心部 、が表しく」と運転手さんを脅し

重廣さんとの初めてのテント 山行は、夢のように楽しい時間 ルプス山行にして、最大の筋肉 水に重廣さんにお会いできる のは九月の山口県の寂地山です。

私の無名山ガイドフックの

おたつさん (五三 g) 大蔵山 (五三 g)

飯田勝之

時折り樹間から見える右手

(東) から上がる稜線が近くな

になる。高度が上がってくると

山稜の最高地点が大蔵山(おお安心院盆地を形成する北側の

が薄くなって高い照葉樹が目立

ってくる。

傾斜が緩くなりヤブ

ってくると稜線上である。

あわただ 四~五 やカシやアセビの混じった天然 ぞさん)である。山頂には直 悩まされながら直登で登るよう 振り返る後方に四六○mの小ピ 林に変わるとヤブこぎである。 やがて伐採地も終わり、カエデ がら少しずつ高度を上げていく。 ったり、自然林を通ったりしな 拾って登ると良い。伐採地を通 たりに踏み跡があるのでそれを る。伐採地と自然林との境目あ しい道はほとんど分からなくな るい伐採地に出るが、細いあや を変えていく。やがて数分で明 に沢から離れて左(北)に方向 ていく。枯れ沢沿いの道は次第 地の中の谷沿いの細い道を登っ ると林道の終点で、スギの造林 のまま進む。右に砂防ダムを見 ところに車をとめてその道をそ 装は切れる。このあたりの広い むと、最後の民家をすぎると舗 に大蔵神社を見て舗装道路を進 さな流れに遡って東に進み、右 入るのが楽である。北山川の 山に登るには院内町の北山から 時代の狼煙台の跡ときく。この たれた竪穴がある。これは戦国 大きな円い、縁に石の積み上 急な斜面を倒木やブッシュに クが少しずつ低くなっていく。 m深さ一○mほどもある

むと数分で山頂に着く。 取る。稜線上はやはり軽いブッ に出たら右(東)方向に進路を 右に左に避けながら進

山は登るときにつけた目印を見 重のやまなみも遠望できる。下 失わないようにして往路を引き 岳、福万山や、その向こうに九 側の展望が良く、 跡がある。狼煙台の横からは南 その横に大きな竪穴の狼煙台の 頂上には三等三角点があり、 由布岳、鶴見

低くなった変型台形の小型八 大蔵山の北側にほぼ同じくら

面山という感じの山の形である。 や北宇佐方面から見ると西が少 いの高さの山がある。北の長州 地図を見ても名前はなく、三角 『おたつさん』と応えるが、ど

私は地図を頼りに一番 昨年(一二年)の秋、 か登ってみたいと思い、 だけである。どんな山 と「さあ?」と応える 点もない。地元も人に聴くと、 んな字を書くのか聴く

> 四 m のはじめに今度は城山(二九八 再挑戦。ヤブこぎを考慮し四月 の北側の谷からアタック

る。 混じった急な稜線上となる。こ 中低木の混交林となり、小岩の 面の造林地を登っていると右手 後は歩きやすいところを選んで ほどで林道終点に着く。そこか 歩いてつめると、池から一五分 いるとやがて照葉樹と落葉樹の 方向が小高い稜線状となってく 上をめざすだけである。緩い斜 でスギの造林地内に踏み込む。 ら踏み込みやすいところを選ん ほどに次第に荒れてきて深い茅 林道は奥に続いているが、進む このあたりが車をとめやすい。 奥山池という小さな堤がある。 に覆われてくる。 字佐市上矢部の向川内の奥に その稜線に向かって登って 荒れた林道を

拝野尾 宫原 向川沙 上矢部 高州 佐田駅川線 348 地吉 談合堂

阻まれ、その都度右に左に迂回 の稜線を登るが、 斜面を歩いたりしながら少しず したり、小さな谷を越えて隣の 々が猛烈なブッシュで行く手を つ高度を上げていく。 急な稜線は所

ている。この低い、こんな里山 ない明るい林床の広場が広がっ うな緩い斜面の窪地と、あたり 雨が降ったら大きな池になりそ あらわれ、その木立の向こうは 泥浴び跡の生々しい水溜まりが ながら進むと、イノシシたちの る所にアカマツの枯れた残骸が 照葉樹の多い稜線上となる。至 漂うところに出会おうとは。 でこんなに幽玄な深山の雰囲気 立ったまま、あるいは横たわっ びアセビやシャカキ、カシなど 崖の急な部分はごくわずかで再 較的登りやすいところがある。 やすい板状の岩が重りあった比 が緩い斜面となっており、崩れ 崖が現れるが、崖の左 木に包まれた、下草のほとんど ている稜線上のブッシュを分け 一面カエデやシデ、ムクなど巨 しばし腰を下ろしてこの不思 やがて目の前にちょっとした (北 側

ある。地図を見ると五一二m あたりの、等高線のもっとも広 ちょうど標高四五〇mをすぎた 頂上の西の端に当たるところで いあたりで、東西に長い台状の トファインディングだ。ここは である。一休みの跡は再びルー 議な雰囲気を楽しみたいところ

行く手を阻まれ、この 木と猛烈なブッシュに

365

北山

そして今年の春

いたことがある。しか をつめ、山腹に取り付

し頂上直下の所で風倒

寺の『泣分れ峠』の民 標高差の少ない、正覚

家の横から荒れた林道

なって泣分れ峠へ向かって落ち 側はいきなりヒノキの急斜面と 倒木とキイチゴやサンショウや ているだけである。山頂部の東 県営林を示す小さな石柱が立っ ちろん山頂を示す標識もなく、 そこには三角点もなければ、も を進むと、やがてヒノキに囲ま わずかにそれと分かる踏み分け が見え隠れするのを眺めながら、 時折り樹間に宇佐平野や御許山 も歩いたと思われる形跡がある。 キ林内に兎路があり、それを辿 獣ですら通れそうにない。しか 強い手合いがのさばる猛烈なブ 広い平らな稜線上はヒノキの風 むとヒノキの造林地と出会う。 低木の二次林となり、さらに進 向かって進むと、巨木の林から 込んでいる。 れた最高地点に達する。しかし っているとどうやらその道を人 ッシュで、とうてい人はおろか サルトリイバラなどもっとも手 し、少し低い稜線の北側のヒノ

当った。 ころでいきなり風倒木帯に行き スギの造林地をどんどん降りて それでもかまわずに歩きやすい りていったら、途中で方向を北 見失い、勝手に見当をつけて降 いったら、傾斜が緩くなったと に取りすぎているのが分かり、 もりだが、岩の崖の所で目印を ことだ。私は自分でそうしたつ のためには登る時にしっかりと 自分で分かる目印をつけておく 帰りは往路を引き返すが、そ 引き返し、 登り返す苦

> う苦い教訓がある。 柏池のほとりに降り着いたとい さに命からがら?の思いで麓の が進入し、格闘約五〇分間、 から、胸もとからスギの枯れ葉 び、腹這い、匍匐前進し、首筋 るいは潜り、 木の上を四つん這いになり、 った。縦横無尽に横たわる風倒 底なし沼に嵌るような心地であ 中に埋まり込み、それはまるで どん失い、次第次第に風倒木の 進むほどに引き返す機会をどん と考えて踏み込んだのが間違い。 労を厭い、そのまま進む方が楽 あるいは跨ぎ、 転 あ

参考タイム

→稜線→一〇分→山頂→一時間 採地→一五分→天然林→三〇分 大蔵山…林道終点→一五分→伐 →林道終点

場→二○分→山頂→二時間→柏 林道終点→→窪地のある台上広 おたつさん…奥山池→一五分→ (下山は参考にならず)

地図 25,000/1 下市、 立

私 記

支部四〇周年記念山行』と位置 で行う山行のうち一つを『私の 一二年度中に支部会員が各自

掲載していきます。で事務局に届いたものから順次になっています。今回から連載づけて取り組み、報告すること

トレッキング七十五周年記念アルバータ初登頂

林山 稔

田本山岳会、カナダ山岳会共 田本山岳会、カナダ山岳会共 を記念トレッキングに参加。 一まで空路。バスでキヤンモア のカナダ山岳会のクラブハウス に到着。十二日はレイクルイー に到着。十二日はレイクルイー に到着。十二日はレイクルイー が、
たレモンレイク・バンフの観 が、
たレモンレイク・バンフの観

> 白に針葉樹の緑と青い空のコン デリー、南には遠くビクトリヤ トラストが実に美しい。 ルフオー (三二四六m)、Mt 下ろす地点まで行く。東にはべ ド氷河の下をタカカホールを見 デントを見上げながらエメラル 上がってくる。プレミデント ピーク・ウエールバックがせり tマッカーサー・アイソレッド を抜けて登ると背後(北)にM ・トレイルを歩く。リトル・ヨ (3495m)も見え、氷河の (三一二四m)、バイスプレミ ・ホリバーを渡り、針葉樹の中 一四日(晴)、アイスライン

一五日(晴)、ウエールバックトレイルからツインホールを合は下り優先。これは離合時間が短くなるからだ。トレイルは落ては全く見られない。キャン学に良く整備され、ゴミの投げが短くなるからだ。トレイルは離の時間がのキャンプ地と異なるところ本のキャンプ地と異なるところが。

> 一九日(雨)、Mtロブソンと北の山々がすばらしい。 ーへ。すぐに街の野外セレモニーへ。すぐに街の野外セレモニーを加。

、。 二十日、五時出発で帰途につ 夜は晩餐会に出席。 時間がなく引き返す。午後ジャ

の麓まで雨の中を歩き始めるが

スパーで七十五周年の記念行事

五時出発で帰途に

房山への道

甲

良治

市房山に四十二年ぶりに登ろりと、友人と計画しました。九重連山を除くと、祖母山、国見岳、市房山の三カ所です。若見岳、市房山の三カ所です。若見岳、市房山の三カ所です。若見岳、市房山の三カ所です。若見岳、市房山に別十二年ぶりに登ろいる。 しん 熊本より高速道に入り、人を計画しました。 九うと、友人と計画しました。 九うと、友人と計画しました。 九うと、友人と計画しました。 れっと。

プが付いたのに気づきました。で、運転する友人が車に赤ランで山トンネルー九五○mの中程丁山トンネルーカ五○mの中程

ピークとウエールバックのコル

までルートを選びながら登る。

わかりました。 トンネル内の事故の恐ろしさが 故処理など気苦労や出費の多さ、 す。レンターカーやJAFの事 の所は重大事故につながるので あったので良かったが、一車線 わないかの事故である。二車線 事故は一生のうち一度会うか会 す。高速道トンネルのトラブル 処理班の人はとても慎重にしま とです。JAFの人から、高速 を置くことが一番最初にするこ の人は、矢印の付いた電導看板死ぬほどの怖さでした。JAF 駄目だとおこられました。事故 トンネル中の事故を軽く見たら スピードと金属音の騒音とで、 高速道のトンネルの中は車の

山は風雨が強く、市房山の山山は風雨が強く、市房山の十周年記念山行者は私たちのほかは四名でしたが、経由で下山する予定でしたが、経由で下山する予定でしたが、そ山は私たちのほかは四名でした。

(九重町筋湯温泉)

四

秋満信

夫

はじめまして、会員番号一三 はじめまして、会員番号一三 はじめまして、会員番号一三 はじめまして、会員番号一三

ずで登山口へ。 この斐伊川は奥出雲の深い山々 ており、松江からは一時間足ら て、道路はさすが良く整備され 竹下登元首相の出身地だけあっ な舞台である。奥出雲地方は故 を縫って流れ、出雲神話の主 て宍道湖に注ぐ斐伊川があり、 東部にはその源を船通山に発し 川、中央部に江の川、そして県 川が流れており、県西部に高津 した。島根県には三本の大きな ざん一一四三m)へ行って来ま 境に位置する船通山(せんつう んなわけで島根県と鳥取県の県 私の四〇周年記念山行は、そ

地元のお巡りさんまで出動して、おりなり、登山口には各地の山ともあり、登山口には各地の山ともあり、登山口には各地の山の日はGWの初日、山頂一帯がの日はGWの初日、山頂一帯が

大にぎわいの登山口。早速支度 大にぎわいの登山口。早速支度 大にぎわいの登山口。早速支度 大にぎわいの登山口。早速支度 大にぎわいの登山口。早速支度 大にぎわいの登山口。早速支度

みつぶしているのには残念だ。 とはいる、ではいって登り、やいて急登。高度が上がるにつれ、 では、たや谷にこの時期だというる。やがて稜線に出て鳥上滝コ この冬の雪の多さを思い出させる。やがて稜線に出て鳥上滝コ では、一人と合流。谷間にはコブシの は涌蓋山のようななだらかま頂になっているが、全体にカ な頂になっているが、全体にカ な頂になっているが、全体にカ な頂になっているが、全体にカ な頂になっているが、全体にカ な頂になっているが、全体にカ な頂になっているが、全体にカ な頂になっているが、全体にカ な頂になっているが、全体にカ な頂になっているが、全体にカ な頂になっているのには残念だ。

三六〇度の展望を誇る山頂からは北は日本海や宍道湖、北東らは北は日本海や宍道湖、北東らは北は日を転じると猿政山、烏南面に目を転じると猿政山、烏中望出来る。しばらく展望を楽ー望出来る。しばらく展望を楽ーな、下山は鳥上滝コースを下る。沢の水しぶきをあびた水ゴる。沢の水しぶきをあびた水ゴースを下ります。

た。 て来ていることを感じさせられ 山深くにも遅い春が確実にやっ

す。八月の剣山山行を楽しみに現在は岡山市に単身赴任中で外を江への帰途に。かり松江への帰途に。下山後は駐車場に隣接するヴ

(岡山市)

安平路山は遠かっ

以田 勝 之

木岳山頂で小屋番の小父さんと、 木まで順調に進む。ところが空 末、千畳敷カールまでロープウ に軽量化を図って、八月末の週 水筒も1リットル入りと、極力 アルプス空木以南の縦走である。 そこで急遽考えついたのが中央 が急病で行けなくなり、二人で 画であったが、直前に氏の父君 った山行は、好天にも恵まれ空 エーでという手抜き登山で始ま 小屋泊まりでテントも持たず、 とてせっかくとった休暇である。 っては申し訳ないと思い、さり いく計画を私一人でやってしま で東北の朝日連峰を縦走する計 の予定は職場の相棒H氏と二人

> タケと違って胸丈のクマザサは 倒の回数も増える。 実際に転び、疲労と比例して転 き、そのたびに転びそうになり ている倒木に幾度となくつまず 笹の下にところ嫌わず横たわっ たのははじめのうちだけ。深い 先が見えて歩きやすいやと思っ 線道が延々と続く。九州のスズ クマザサに覆われた不鮮明な稜 しい道となり、南越百から先は ていた立派な縦走路は途端に怪 百山へと向かう。それまで続い えたが、気を奮い立たせて南越 難小屋に向けてエスケープも考 水筒の減るペースも速く、越百 の悪場で早くも半ばグロッキー を案じ始める。そうして仙崖嶺 までの足の重さに今日の行く末 時出立予定が一時間遅れ。南駒 ささか重い宿酔気味の朝は、 まずアクシデントの始まり。 互いに単独行の中年男五人が へ緩い登りに青息吐息。越百避

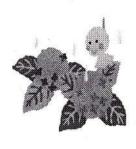
。 が予定より一時間半の遅れ。こで小屋でもらったおにぎりをこで小屋でもらったおにぎりをにくく、一つ食べてやめてしまにくく、一つ食べてやめてしまにくく、一つ食べてやめてしまない。喉は渇くが水はもうあとない。喉は渇くが水はもうあとない。喉は渇くが水はもうあとない。喉は渇くが水はもうあとない。喉は渇くが水はもうあとない。喉は渇くが水はもうあとない。喉は渇くが水はもうあとない。喉は渇くが水はもうが水はもうが水は、

登りで完全にスタミナ切れをきたした。さほど急でない登りをそしてもう一歩も歩けなくない。サ計は午後三時半。太陽はまだ時計は午後三時半。太陽はまだ時計は午後三時半。太陽はまだりの下の日陰に笹を折り畳んでどバーグを決め込む。大きなシラビーのを決め込む。大きなシラビーの下の日陰に笹を折り畳んではまだので、

体を伝って靴の中に水たまりを なヤブこぎは続く。露の滴は身 を頼りにまるで際限のないよう 頃にはもう中までぬれ通り完全 くる。雨具を出そうかと考える 塗れた笹で次第に全身が濡れて 立ちこめてくる。雨粒か夜露か 開始。進むにつれ次第に夕闇が し込む。そして再び笹との戦闘 に残っている水と一緒に喉に流えのおにぎりを、最後にわずか にはなれない。昼の残りの生煮 にビバーグというような気持ち ない。しかしもうこの藪のなか 雨は直ぐに止んで大したことは 回復している。一時ぱらついた のに不思議なほど体力、気力が ずか二時間足らずの睡眠だった 発。時計は午後五時二〇分、わ 起きた。シュラフをたたみ再出 れはごめんだと、あわてて飛び 覚めた。こんなところでずぶ濡 パラパラと落ちる雨の音に目が うでもあるが、突然の雷鳴と、 ずかのようであり、何時間のよ に手遅れである。ヘッドランプ どれだけ眠ったか、ほんのわ

場所すら見あたらない。このま 木休憩舎まで下ってしまうか、 身体を動かすしかない。ままよ、 までは寒さにやられてしまう。 見落としたのかもしれない。し かり。もしかしたら下る途中に うやくの思いで午後八時安平路 着替えはおろかザックを下ろす り一面露に濡れた深い笹の海で、 着替えしようかと思うが、あた と全身がガタガタと寒くなる。 0 かしどこまで引き返したらよい 幹と夜露に輝く銀色の笹の海ば 出されるものはシラビソの白い が、暗闇の中、ランプに照らし をあちこちかき分けて歩き回る 探すが、見あたらない。笹の中 水筒にも満タン。さてと小屋を ようにむさぼるように水を飲む。 渇きに渇いた喉。まるでカバの 水場の標識。あわてて沢に下る。 た。下りきると沢音が間近で、 が暗闇の中には何も見えなかっ る途中から小屋が見えるとある 寒くなる。ガイドブックでは下 下る。登りには感じなかったが、 派な山道で暗闇の中をどんどん 山に到着。安平路山から先は立 中を引き返したり進んだり。 度も道に迷ったかと思い、 下り始めるとずぶ濡れの全身が 晩中歩き通して今夜中に摺古 か。立ち止まって考えている スする道はまるで獣道で、

まだ新しい無人小屋は私にとっ た小屋の姿。『助かったア。』 突然ヘッドランプに浮かびがっ 前に進む。露に濡れた笹をやみ てはまさに地獄に仏であった。 くもにかき分けて進んでいると (別府市



おススメ映画 『山の郵便配

あ ず 3

族のもとに帰りたくなる作品で やかな感動に包まれて、早く家 で、ホールから出る人々はさわ 連日立ち見客が出るほどの好評 る映画が届きました。東京では 中国からしっとりと心にしみ

過酷な配達のため足を痛め、息 とになります。それぞれの手紙 子が父のあとを継ぎ配達するこ ました。長年仕事を続けた父は は人の足によって配達されてい 山岳地帯、小さな村々への郵便 一九八〇年代、中国湖南省の

シネマ5にて九月上映予定

初めての郵便配達に向かう息子 郵便配達となる父と、いつも配 楽しみに待っています。最後の 道のりの物語です。 の、一日四十キロ、二泊三日の 達の相棒を努める犬の二郎坊、 れ、手紙を配達する父を村人も には家族を思う気持ちが込めら

親を暖かく迎える村を回るにつ 息子は、最後の配達となった父 解けていくのを情緒豊かに描い の中、二人の固く閉ざした心が 父は、まだ子どもだとばかり思 めていきます。留守がちだった れて、父に対する尊敬の念を深 いない父親に心を閉ざしていた した姿を頼もしく思います。 っていた息子のたくましく成長 匂い立つような樹林の濃い緑 郵便配達のためほとんど家に

鮮やかな色彩、どの画面も息を 彩の豊かさ、風を思わせるよう とともに蘇ります。 日本人が、遙か昔に置き忘れて 降り頻る雨でさえ美しく・・・ 呑むような印象的な画面です。 山々の深く濃い緑と風、祭りの れます。トンボが乱舞する風景 な音楽が、二人と一匹のシンプ ルなストーリーを際立たせてく 計算されたカメラアングル、色 しまった家族の絆が美しい映像 何と言っても映像の美しさと

知 5 せ

八月月例山行の

目的…剣山(1955m)(徳島県)

日時…八月二五、二六日

ラフ、テント 五食分の食事(途中コンビニ 等で用意してもよし) とシュ

*

・二四日佐賀関よりの最後のフ 加者は連絡を。 エリーで渡る予定ですので参

九月月例山行の

目的…寂地山

(重廣さんの分水嶺 (山口県最高峰

・三食分の食事とシュラフ、テ ント 日時…九月八、九日

ます。 出発時刻等の日程は重廣さん の日程が決まり次第ご連絡し

C

十月月例山行の

山に満ちていました。

目的…天包山(1188m)

ハッピ(日本山岳

購入用希望者は事務局まで申 し出ください。 一着…八,〇〇〇円

時ならぬ紅葉に接した気分で の規模を遙かに上回り、山の 斜面一面がまるで涸れ木の原 ミヤマキリシマの虫害は例年 ことしの大船山、平治岳

ざんであったのとはうらはら 事な咲き具合で、感嘆の声が はまた数年、十数年ぶりの見 に、今年の黒岳のシャクナゲ ミヤマキリシマの花がさん うだるような極暑の候。 日本山岳会東九州支部報 1 200 (平成13年) 7月 25日 1年 発行者 編集者 発行所 徳之 木田 秀勝 飯 〒870-0021 大分市府内町1

佐藤正

題字

(宮崎県)

度山に入ったら、街に帰る

- 日時…十月十四日
- 三食分の食事とシュラフ、 テ
- 出発は十三日午後六時サニー

全国支部懇談会の

- 日時…九月二十九,三十日
- 場所…石川支部
- 緒に申し込みます。 支部事務局ご連絡頂ければ一 参加希望者は八月十日までに

0 寄せください。楽しみにして よう。色々な夏山の便りをお います。 の山を楽しんでいることでし 色に染まるのでは登心配して 重のノリウツギはまた夏枯れ さと少雨の日々が続くと、九 れる今日この頃。こんなに暑 がつくづく剣呑な思いに駆ら それぞれに、思い思いに夏

います。

K·I)

9

孝子方

097-532-0926

4号